

解答

一

問一 a こた b まね

問二 1 オ 2 ア 3 ウ 4 エ

問三 苦

問四 才能

問五 ア

問六 音楽という一生懸命になれるものがあり、歌うことで何の迷いもなく進む様子。

問七 お気楽そうでのんきな人と思っている。

問八 お互いの親密さと信頼

問九 ひかりと呼ばれることで、これまで人間としてすごいと羨ましく感じていた御木元さんと、自分との距離が縮まった気がしたから。

二

問一 a 極論 b 過言 c 不毛

問二 1 エ 2 ウ 3 オ

問三 (7) 消費 (4) 有限 (7) 複雑

問四 環境の容量を思ってきた（から）

問五 「借金」を子孫に押しつけている

問六 生産力の低い生活に戻ると多くの餓死者が出ること。

三

問一 一心

問二 自分の要求を聞いてもらえないので、いらだててきたから。

問三 忙しい最中お互いの気持ちをぶつけ合った後で、落ち着いて素直に接することができるから。

四

1 ウ 2 ア 3 イ 4 ア 5 エ

五

1 木 2 (さんずい) 3 日 4 火 5 土

解説

一 問六

傍線③の前後で、私の御木元さんに対する思いが述べられている箇所に着目します。御木元さんの情熱に圧倒され、この人はすごい、と涙が出そうだったことや、一生懸命になれる何かがほしくてたまらなくなったことが述べられています。また、千夏とのやりとりの中では、「歌うことで何の迷いもなく進んでいける御木元玲と、なんにもない私。」と羨む内容をわかりやすく表現しているので、これらの内容をまとめて書き表します。

問八

本文の後半では、合唱コンクールでさんざんな出来に終わった歌を、もう一度マラソン大会で歌うことになり、御木元さんの一粒の涙で私たちは変わった、という内容を述べています。「すごいなあ、と私は素直に」ではじまる段落に変化した様子が描かれているので、「音楽というのは、お互いの親密さと信頼があって育っていくものらしい。」という一文から、「今のクラスにはあるもの」を読み取ります。

二 問四

傍線①の一つ前の段落に、かつては「環境は無限」と考えられていたことが述べられ、続く一文でより詳しい内容を記述しています。

問六

傍線③の後に、「原始時代の不安な生活に戻れるものなのでしょうか。」という記述があり、その直後で「生産力の低い生活に戻れば、どれほど多くの餓死者が出ることでしょ。」と問題を指摘しているので、この部分を適切な形にまとめて答えます。

三 問二

中盤には、ユリがいつべんにいろんなことを言うので、だんだん僕は不機嫌になり、ユリも不機嫌になってくる様子が描かれています。ここから自分の言うことに父が対応してくれず、次第に不満を募らせていくユリの様子が読み取れます。

問三

第六連には「しずかで美しい時間」として、それまでの慌ただしい様子とは異なる情景が表現されています。そこでどのようにして第六連に至ったのかをわかりやすく説明します。